

微笑庵便り 2018年12月号

本年1月にホームページをリニューアルしたのをきっかけに始めた微笑庵便り、早くも2018年はこれが最後となりました。本当に月日の経つのは早いものです。書いていて私自身が思ったのは立体を文章で説明しようとする事の難しさ、普段教室ではほとんど一人ひとりに合わせて説明していますが、それでもそう簡単に理解できるものではありません。まして、“仏像彫刻ってどんなものかな？”“始めてみようかな？”位の感じでこれを読んでいただいたとしても何を言っているのか見当もつかないと思います。

でも、せっかく読んでくださったのも何かのご縁、分からないなりでいいので、もし、実際に仏像彫刻を始めることがあったら、ほんのちょっと“何かわけのわからないことを言っていたな。”と思い出していただけたら幸いに思います。

彫るというのは、四角い木の塊を手にした時、その中に出すべき姿が見えていなければできません。私たちにできることはいらぬものを取り除いていく、ただそれだけなのです。でも、どこが必要でどこがいらぬのか、そんなことどうしたら分かるのでしょうか。もし自分でやってみようとしたら、まずは何か本を探して、その写真を見ながら彫ってみることでしょう。でも多くの場合、きちんとした形にはならないのではないのでしょうか。「彫る」というのは取り去っていく作業、取ってしまったから“ああ、こうじゃなかった”と思っても間に合わないのです。

彫るためには、彫るための考え方が必要です。塊、面、量、引き算、輪郭線等、こういう基本的な概念を少しずつ習得していくほかはありません。骨で組み立てて、肉をつけていく、着物を着た人を作るのではなく、肉体を作ってそこに衣服を着せていくのです。とんでもなく難しい作業ではありますが、きちんと手順を踏んでいきさえすれば確実に形は表れてきます。ある意味不思議で、ものすごく楽しい世界だと思います。とても難しい、それは事実ですけど、もし、やってみたいと思っている方がいたら、それで怖気付かないでください。多分それ以上に奥が深く楽しい世界が待っています。大切なのは、ご自身のやってみたいというその思いだけです。

今年も残すところ10日余りとなりました。皆様よいお年をお迎えください。

増山白舟

おかげさまで



ありがとう